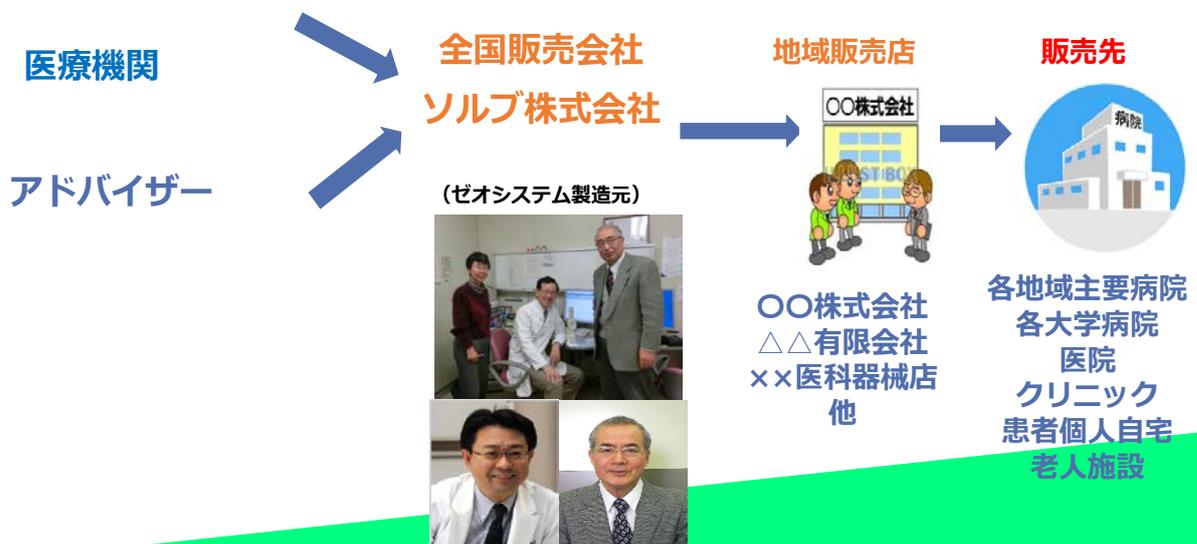


排尿障害と生活習慣病の予防・診断に役立つ 尿流量計の製造販売

株式会社ゼオシステム



ポータブル尿流量計の開発製造販売
 (株)ゼオシステム、東大、横浜国大、横浜市大、神奈川大学と開発し
 ソルブ(株)から日本・世界に販売



尿流量計

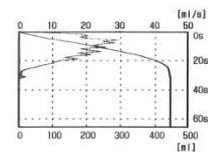
(本体+Uカップ+Uセンサー)



周辺機器



排尿日時: 2018/03/28 15:12:58
 患者ID: KANJYA-10000002
 排尿量: 443.9 ml
 最大: 29.2 ml/s
 平均: 13.5 ml/s
 排尿時間: 33 sec
 最大到達時間: 6 sec
 たらい時間: 3 sec



事業ビジョン・コンセプト

ビジネスプラン（ビジョン）

排尿障害者と高血圧患者の重篤化を未然に検査・診断して防止するポータブル尿流量計を医療機器販売会社ソルブ株式会社と平成31年3月販売開始（上市）する。

事業概要

①製品・商品・サービスの概要

排尿流量、塩分濃度等を計測し数値化して、排尿パターンも含めて、多くの診療科に共有化できるデータ開示をする。

持ち運びが可能、尿を溜めない、本体は防水処理し水洗いで清浄にする設計をしてUカップ・Uセンサーはデスポーザブルにして排尿流量を計測する。

排尿量に含む塩分量を計測して、塩分摂取量を推定し表示する（開発中）。

②顧客セグメント・市場特性

医療施設内で外来患者及び入院患者が検査・診断にポータブル尿流量計で排尿流量の計測をする。日本国内では排尿障害、生活習慣病（高血圧、糖尿病、高脂血症）患者数はそれぞれ1000万人を超しているが泌尿器科と内科に診療科が分かれている。診察医師も7000人、87000人がいる。排尿障害（頻尿、失禁、尿閉、多尿）者は生活習慣病を多く患っている。

患者は医師多数の内科で診療し数値化して、他の診療科に障害データを開示する事は患者が重篤になる前の診療に大きく貢献する。

③提供する価値

排尿障害とメタボリックシンドロームは動脈硬化が進み、塩分量を多く摂取すると高血圧になる。摂取した塩分の90%は尿で排出されるが、ポータブルで高性能な排尿流量測定機が市場に無い為に24時間の排尿流量の計測が出来なかった。

本開発した尿流計 Freeflow を用いる排尿流量測定で、1日の摂取塩分量を推定することが可能になった。

④特長（新規性・独創性、市場性・将来性、実現可能性、社会・経済への貢献性）

尿を溜めないで持ち運びも可能な尿流計 Freeflow は利便性で世界最高級品であると日赤センター病院長本間先生は言います。益々進む高齢化社会は排尿障害と生活習慣病患者が増加する。重篤な患者になる前の検査・診療に在宅でも使用可能になるため本開発したポータブル尿流量計の市場性は大きい。尿流量計 Freeflow 販売に昨年9月から医療機器販売歴40数年の実績あるソルブ株が会社総力で営業開始した。

排尿障害を検査して生活習慣病を減少させる。排尿障害患者の重篤化を防ぎ認知症患者の増加を抑え、大きく社会・経済へ貢献する。

今後の課題と対策

尿流量計 Freeflow は東京大学医学部泌尿器科外科学本間先生のプロポーザル発信から開発して来たが泌尿器科以外他の診療科未契約である。

内科、産婦人科、脳神経科、整形外科など他の診療科及び学会にこれから説明していきます。

株式会社ゼオシステム

代表取締役

下川 三郎

<http://www.geo-system.co.jp>

e-mail

s-shimokawa@geo-system.co.jp

〒221-0823

横浜市神奈川区ニッ谷町 10-10